

バスケットボールフリーペーパー
ハッスルボード

VOLUME
008

2025年12月20日発行
(株)オンザコート
<http://www.onthecourt.jp/>

TAKE FREE

Hustle Board

BASKETBALL INFORMATION
DELIVERED BY ON THE COURT

B.LEAGUE 2025-26 SEASON

来季からのリーグ構造 神戸ストークス(B2) / 金沢武士団(B3)
変革に向けた「成長」

W.LEAGUE 2025-26 SEASON

外国籍選手の登録 今季のダイジェストレポート
規定変更注目!

チーム探訪SPECIAL

東京都 早稲田大学(男子)

Special Feature

ルンゲ春香、コーチ 素敵な人との出逢いで人生は変わる
への道(前編)

Topics

SoftBank ウインターカップ2025 令和7年度 第78回
全国高等学校バスケットボール選手権
TOURNAMENT BRACKET

OTC ANCHORS 通信

Everyday Chuckles
日々笑顔を忘れず

Hustle Board column

皆人公平 寄港中

Presents 読者プレゼント

神戸ストークス ホームゲーム
観戦ペアチケット(観戦申込券)

デフバスケットボール
日本代表応援Tシャツ(RED)
Mサイズ/Lサイズ

デフバスケットボール
日本代表応援タオル

PUSH YOURSELF NOW TO SHINE DOWN THE ROAD.

2025
December
12

今季のBリーグは開幕から数えて10年目。来季、大きな変革を迎えるからこそ“今の頑張りが未来の輝きにつながる、シーズンになる。B1はチャンピオンシップの常連クラブが安定感を見せる中、レバンガ北海道(東地区)や名古屋ダイヤモンドドルフィンズ(西地区)の健闘が光る。B2では、来季からの「Bプレミア」参入を決めている神戸ストークスが好調をキープし、今季の優勝争いだけでなく、プレミアでの躍進を予感させる。B3は再編成により、多くのクラブが「Bワン」に参入するが、金沢武士団も間に合った。



来季からのリーグ 構造変革に向けた「成長」

**Bプレミアへ続く熱気を今、
体感しよう**

今季のB2は、昨季と同じ東西7
クラブずつで構成されている。アル
テイーリ千葉と富山グ
ラウジーズがB1昇格を
果たし、B3から横浜エ
クセレンスと岩手ビッグ
ブルズが昇格してきた。

今季は「B1昇格・B2
降格がない特別なシーズン
」で、目標は優勝ある
のみ。「Bプレミア」参入
を決めている信州ブレ
イブオリアーズと神戸ストークスに
とっては、それこそが飛躍の糧につ
ながる。

そのために神戸は、チーム編成に
大ナタを振るい、ロスターを大きく
変化した。まずはヘッドコーチにB
1ファイティングイーグルス名古屋に
8年間在籍した川辺泰三HCを迎
え入れ、選手は#5アイザック・バツ
ツ、#9谷直樹、#13道原紀晃、#30
金田龍弥、#90野溝利一の5選手以
外を入れ替えた。その中にはB1経
験者も多く、キャプテンにレバンガ北

神戸ストークス 川辺 泰三HC ©KOBE STORKS



海道から移籍の#4寺園脩斗選手
(表紙掲載が指名された。
「小学校から大学、プロに至るま
でキャプテンを経験してきたので、
神戸でも覚悟を持って引き受けま
うか。」
「オフセンス、
ディフェンスともに
(チームのコンセ
プトは)浸透して
きたと思っ
ます。試合中
も、以前に比
べればアイコ
ンタクトなどで選手が反省し
たり、ハッスルしたり、意思統一
が図れるようになってきました
た。ただ全員が、本当に40分間
やり続けられるかという点まだ
『?』が付くと思っています。自
分自身も含め、まだまだチャレンジ
していかなければなりません」と、
気持ちを引き締めた。



神戸ストークス #13 道原 紀晃 ©KOBE STORKS

した。チームでやろうとしているこ
とが最優先で、川辺HCの求める
プレーを遂行することが重要だと
思っています。それは練習から取り
組むべきことで、平日頃みんなに伝
えるような心がけています」と、持ち
前のキャプテンシーを発揮し、チー
ムをまとめています。

そんなキャプテンに対し川辺HC
は、「彼は本当に素晴らしい選手。B
1でスタートだった選手が、これだ
けの活躍をしているわけですから、
信頼もリスクもありです」と全
幅の信頼を置いている。



神戸ストークス #5 アイザックバツツ ©KOBE STORKS

全員で「ウイニングカル チャー」を熟成

新生ストークスにあって、生え抜
きのベテランとして気を吐くのが、フ
ランチャイズプレーヤーの道原選手。
入団当初と比べれば、新アリーナの
完成もあり、練習環境や試合の雰囲
気などガラリと変わった。さらなる
「成長」に向かう意気込みを確認す



ると、「これまでもモチベーションを
維持しながら頑張ってきましたが、
今まで以上に強く感じるというか、
自分の成長を見せていかなければ
プレータイムはもらえません。練習
環境でいえば、自分で時間を作れば
いつでもシューティングやトレーニン
グができる。これからも1分1秒を
大切に、ルーズボールやディフェン
スでのハッスルなど、自分らしさを表
現していきたいと思っています」と、
チームを代表して「向上心」を表現
する。

チームはこの日(11/16)、青森
ワッツを相手に10連勝を達成し通
算14勝1敗とした。川辺HCと寺
園選手は、こんなコメントも残して
いた。

川辺HCは伸び盛りの#30金田
龍弥選手について、「彼の成長がチー
ムの成長にもすごくプラスになっ
ている。あのサイズで相手のガード
を守りに行けるし、リバウンドや
ボールプッシュの能力もある。あとは
オフセンスですが、まだ若いのでこ
までできるようになるか。日本代表
に入れるぐらいの器なので、しっか
り育てたいと思います」。

寺園選手は10連勝について聞か

れ、「それが当然と捉える心構えが
大事だと思っています。1敗してい
ることを反省点に、同じ負け方はし
ない。自分たちが求めるウイニングカ
ルチャーを創り上げたいと思ってい
ます」

この先も続く今季だが、来季の
「Bプレミア」に向けた道筋を、ク
ラブもチームも明確に示している。
GLION ARENA KOBEでの熱い戦
いを見逃してはいけない。

Bワン参入が、 地元を勇気づける

現在のB2、B3から多くのク
ラブが参入する「Bワン」は激戦の
リーグになるのは必至。25クラブが
5地区に分かれ、覇を競うことにな
るからだ。B3から参入(仮入会)
する金沢武士団(サムライズ)もその
ひとつ。直近5シーズンは11位が最
高で、2023・24シーズンは最下
位に沈んだ。そこで白羽の矢が立つ
たのが、中京大学スポーツ科学部の
教授にして、学生バスケの強化委員
長も務めていた松藤貴秋HC。関係
者の要請により、2024・25シー
ズンに就任し、2季目を戦っている。

B.LEAGUE 2025-26

PUSH YOURSELF NOW TO SH

神戸ストークス #8 八村 阿蓮
©KOBE STORKS金沢武士団 松藤 貴秋HC
©KANAZAWA SAMURAIZ金沢武士団 #13 ハイラム・ハリス
©KANAZAWA SAMURAIZ

今はまだ、チームの土台づくりの途中だという松藤HCは、「Bワン参入が大きなきっかけとなり、地元を活気づけられるよう、今季もチャレンジし続けます」と力強く語る。一歩ずつ前進する姿、それが地域の希望になる。

勝つことはプロであれば当然であり、成長は誰もが求めるべきこと。3つ目は『能登半島地震(2024年)からの復興を、バスケットを通してサポートしたいという思いからだ。就任を決意した一番の理由でもあるという。

1年目は6勝→16勝と勝星を伸ばし、今季は8勝10敗(11/30現在)。「良くなっているのはオフエンス。トランジションで走るバスケットが好きで、そのマインドが浸透してきました。選手全員が走って積極的にシュートを狙う。もつと良くなると思います」と手応えを口にす。就任時、松藤HCが決めた3つのゴールがある。それは「勝つこと」「チームと個人が成長すること」と、「支えてくださる方がたのためにプレーする」ということ。



順位表

2025-26シーズン
※2025年11月30日現在

B1順位

◆東地区

順位	チーム	勝負
1	千葉ジェッツ	15勝3敗
2	宇都宮ブレックス	14勝4敗
3	レバンガ北海道	14勝4敗
4	群馬クレインサンダーズ	12勝6敗
5	アルパルク東京	10勝8敗
6	仙台89ERS	8勝10敗
7	越谷アルファーズ	8勝10敗
8	サンロッカーズ渋谷	8勝10敗
9	アルティエリ千葉	6勝12敗
10	横浜ビー・コルセアーズ	6勝12敗
11	川崎ブレブサンダーズ	3勝15敗
12	茨城口ポッツ	3勝15敗
13	秋田ノーザンハピネッツ	3勝15敗

◆西地区

順位	チーム	勝負
1	長崎ヴェルカ	16勝2敗
2	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	16勝2敗
3	シーホース三河	12勝6敗
4	琉球ゴールデンキングス	12勝6敗
5	広島ドラゴンフライズ	11勝7敗
6	島根スサノオマジック	10勝8敗
7	滋賀レイク	9勝9敗
8	大阪エヴェッサ	8勝10敗
9	佐賀バルレーナース	7勝11敗
10	三遠ネオフェニックス	7勝11敗
11	ファイティングイーグルス名古屋	6勝12敗
12	京都ハンナリーズ	5勝13敗
13	富山グラウジーズ	5勝13敗

B.革新

B2順位

◆東地区

順位	チーム	勝負
1	福島ファイヤーボンズ	18勝1敗
2	福井ブローウィングス	12勝7敗
3	信州ブレブウォリアーズ	12勝7敗
4	横浜エクセレンス	10勝9敗
5	岩手ビッグブルズ	7勝12敗
6	山形ワイヴァンズ	5勝14敗
7	青森ワッツ	3勝16敗

◆西地区

順位	チーム	勝負
1	神戸ストークス	17勝2敗
2	愛媛オレンジバイキングス	13勝6敗
3	鹿児島レブナイズ	10勝9敗
4	ライジングゼファー福岡	9勝10敗
5	熊本ヴォルターズ	7勝12敗
6	バンビシャス奈良	7勝12敗
7	ベルテックス静岡	3勝16敗

B3順位

順位	チーム	勝負
1	徳島ガンパロウズ	14勝4敗
2	香川ファイブアローズ	12勝4敗
3	東京八王子ビートルズ	12勝4敗
4	立川ダイス	12勝6敗
5	新潟アルビレックスBB	13勝7敗
6	さいたまブロンコス	11勝7敗
7	トライフープ岡山	12勝8敗
8	岐阜スーパース	9勝9敗
9	湘南ユナイテッドBC	9勝9敗
10	金沢武士団	8勝10敗
11	東京ユナイテッドバスケットボールクラブ	6勝12敗
12	アースフレンズ東京Z	5勝13敗
13	しながわシティバスケットボールクラブ	5勝13敗
14	山口パッツファイブ	5勝15敗
15	ヴィアティン三重	3勝15敗

2026-27シーズン・2027-28シーズン

B.LEAGUE PREMIER

参入クラブ

東地区

レバンガ北海道 北海道札幌市/北海きたえーる
仙台89ERS 宮城県仙台市/ゼビオアリーナ仙台
秋田ノーザンハピネッツ 秋田県秋田市/新秋田県立体育館
茨城口ポッツ 茨城県水戸市/アダストリアみとアリーナ
宇都宮ブレックス 栃木県宇都宮市/ブレックスアリーナ宇都宮
群馬クレインサンダーズ 群馬県太田市/オープンハウスアリーナ太田
アルティエリ千葉 千葉県千葉市/千葉ポートアリーナ
千葉ジェッツ 千葉県船橋市/LaLa arena TOKYO-BAY
アルパルク東京 東京都江東区/TOYOTA ARENA TOKYO
サンロッカーズ渋谷 東京都江東区/TOYOTA ARENA TOKYO
川崎ブレブサンダーズ 神奈川県川崎市/
(新)とどろきアリーナ(仮称)
横浜ビー・コルセアーズ 神奈川県横浜市/横浜BUNTAI
富山グラウジーズ 富山県富山市/YKK AP ARENA

西地区

信州ブレブウォリアーズ 長野県長野市/ホワイトリング
三遠ネオフェニックス 愛知県豊橋市/多目的屋内施設
シーホース三河 愛知県刈谷市/三河安城交流拠点(名称未定)
名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 愛知県名古屋市/IGアリーナ
滋賀レイクス 滋賀県大津市/滋賀ダイハツアリーナ
京都ハンナリーズ 京都府京都市/京都アリーナ(仮称)
大阪エヴェッサ 大阪府大阪市/おおきにアリーナ舞洲
神戸ストークス 兵庫県神戸市/GLION ARENA KOBE
島根スサノオマジック 島根県松江市/松江市総合体育館
広島ドラゴンフライズ 広島県広島市/広島グリーンアリーナ
佐賀バルレーナース 佐賀県佐賀市/SAGAアリーナ
長崎ヴェルカ 長崎県長崎市/ハビネスアリーナ
琉球ゴールデンキングス 沖縄県沖縄市/沖縄サントリアアリーナ

2026-27シーズン

B.LEAGUE ONE

参入クラブ

北地区

青森ワッツ 青森県青森市/カクヒログループスーパーアリーナ
岩手ビッグブルズ 岩手県盛岡市/盛岡タカヤアリーナ
山形ワイヴァンズ 山形県天童市/山形県総合運動公園
福島ファイヤーボンズ 福島県郡山市/宝来屋ボンズアリーナ
越谷アルファーズ 埼玉県越谷市/越谷市立総合体育館

西地区

ベルテックス静岡 静岡県静岡市/静岡市アリーナ
ファイティングイーグルス名古屋
愛知県名古屋市/名古屋市枇杷島スポーツセンター
バンビシャス奈良 奈良県奈良市/ロートアリーナ奈良
トライフープ岡山 岡山県岡山市/シグターアリーナ岡山
徳島ガンパロウズ 徳島県徳島市/とくぎんトモニアリーナ

東地区

さいたまブロンコス 埼玉県さいたま市/浦和駒場体育館
東京ユナイテッドバスケットボールクラブ
東京都江東区/有明アリーナ
アースフレンズ東京Z 東京都大田区/大田区総合体育館
立川ダイス 東京都立川市/アリーナ立川立飛
東京八王子ビートルズ
東京都八王子市/エスフォルタアリーナ八王子

南地区

香川ファイブアローズ 香川県高松市/あなぶきアリーナ香川
愛媛オレンジバイキングス
愛媛県松山市/松山市総合コミュニティセンター
ライジングゼファー福岡 福岡県福岡市/照葉積水ハウスアリーナ
熊本ヴォルターズ 熊本県熊本市/熊本県立総合体育館
鹿児島レブナイズ 鹿児島県鹿児島市/西原商会アリーナ

中地区

横浜エクセレンス 神奈川県横浜市/横浜武道館
新潟アルビレックスBB 新潟県長岡市/アオーレ長岡
金沢武士団 石川県金沢市/いしかわ総合スポーツセンター
福井ブローウィングス 福井県福井市/セーレンドリームアリーナ
岐阜スーパース 岐阜県岐阜市/OKBぎふ清流アリーナ

2026-27シーズン

B.LEAGUE NEXT

参入クラブ

しながわシティバスケットボールクラブ
東京都品川区/品川区立総合体育館*
湘南ユナイテッドBC 神奈川県藤沢市/秋葉台文化体育館

ヴィアティン三重 三重県鈴鹿市/AGF鈴鹿体育館*
山口パッツファイブ 山口県宇部市/依田翁記念館

※=特例適用

※チーム名 ホームタウン/ホームアリーナ

昨季より2部制に移行したWリーグ。『Wプレミア』最下位の日立ハイテクと、『Wフューチャー』最上位の東京羽田が自動的に入れ替わり、入替戦を戦ったアイシンと三菱電機は、アイシンが勝利してプレミア残留を決めた。

今季も2つのカテゴリで優勝と、昇降格を懸けた熱い戦いが繰り広げられる。そこに大きく影響しそうなのが「外国籍選手の登録規定変更」。WNBAや母国の代表チームでプレー歴のある選手たちがエントリーされている。有力選手の移籍もあり、勢力図に変化が起きそうだ。



ENEOS #26 田中 ころる ©WJBL

外国籍選手の登録 規定変更注目!

外国籍と移籍選手は、
期待大の即戦力!

ぼす。トヨタ自動車以来の子弟コンビが一
気に頂点をめざす。

既存のメンバーに
刺激を与える新戦力

この時期に順位争いに触れるのは少し
気が早いですが、序盤で順調な滑り出しを見
せたのはトヨタ自動車アンテロープス。昨
季は若手が主体で経験値に不安が残る、
勝ち星を伸ばせず5位。上位4チームに
よるプレーオフ進出を逃した。今季は経
験を積み上げたチームを、#15安間志織、
#23山本麻衣のガードコンビが上手くコン
トロール、成長著しい#13オコクウオス
ザンアマカラ若手の力を引き出し、上位
をキープしている。

3連覇を狙う富士通は、新指揮官・日
下光HCの下、従来の「チームバスケット」
をさらにブラッシュアップ。V2の主力選手
を中心に、3季ぶりに復帰した#11前澤滯
(旧姓：篠崎)や、新外国籍#22アカト
ーサリテンエプリンらを加え、リーグ屈
指の選手層の厚さを誇る。

同じく上位のデンソーアイリスは、キャ
リアのあるベテラン・中堅が実力を発揮
し、安定感バツグン。デンソーは#8高田真
希と#4川井麻衣に加え、#73今野紀花
の飛躍、昨季のフューチャーリーグ MVP
#21笠置晴菜の再加入も大きなプラスに
なっている。あとは#88赤穂ひまわりの完
全復活でチームの完成度が上がっていく。

ここ数年、セミファイナルの壁を超えら
れないシャンソン化粧品シャンソンVマジック。
ヘッドコーチの交代(小笠原真人HC)
と、エース吉田舞衣引退という変革期を
迎えたが、プレーオフ争いに踏みとどまり
たい。何度も悔し涙を飲んだ#1小池遙
や#6白崎みなみ、#45佐藤由璃果ら不
動のスタメンに、機動力が武器の新人#22
ンウオコマーベラスアダクビクター、移籍
加入の#44峰晴寿音らが絡んで雪辱を果
たすべく挑んでいく。

今後の展開により、順位はどんどん変
わっていくが、プレーオフ進出に虎視眈々、
トヨタ紡織サンシャインラビッツは好位置
につけている。かつてWリーグで連覇(トヨ
タ自動車)を果たした、スペイン生まれの
名将ルカス・モンデロHC体制3季目。

ENEOSサンフラワーズはやや出遅れ
た感はある。とはいえ、新加入の#0
馬瓜エブリンをはじめ、#32宮崎早織、
#59星杏璃ら実力派が揃う。一躍スター

日本代表に名を連ねる#8
東藤なな子、得点力が持ち
味のPG#7都野七海、昨季
の新人王#6デイマロジェシ
カワリエビモエレらが中軸
となるチームに新戦力、#2
長岡萌映子が移籍してき
た。キャリアが豊富で、その
影響力はリーグ屈指。コート
内外でチームに好影響を及



デンソー #21 笠置晴菜 / #73 今野紀花 ©WJBL

トヨタ紡織 #2 長岡 萌映子 ©WJBL



トヨタ自動車 #13 オコクウオ スーザン アマカ ©WJBL



アイシン #1 渡嘉敷 来夢 ©WJBL

東京羽田 #12 本橋 菜子 ©WJBL

シャンソン化粧品 #22 ンウオコ マーベラス アダク ビクター ©WJBL

富士通 #52 宮澤 夕貴 ©WJBL

W.LEAGUE 2025-26

PUSH YOURSELF NOW TO SH

選手の仲間入りを果たした#26田中ころ、196cmのビッグセンター、新外国籍の#11プレッテルレインアシュテンもおり、巻き返しは十分可能だ。

下位のアイシン ウィングスはシーズン序盤、新しい役割に就いていたBT テーブス ディレクターが役職を変更し、チームの指揮を執ることになった。#1渡嘉敷来夢、#2岡本彩也花ら役者はおり、#9高橋未来、#3アマラ・ジャネイ・コリンズなど新加入の選手がいかにチームにフィットしていくか。テーブスHCの手腕にかかっている。

東京羽田ヴィッキーズは主力のケガにより、苦しいシーズンが続く。#12本橋菜子が粘り強いプレーでチームを引っ張りながら、若手の成長を促していく。1勝の積み重ねが何よりの財産になっていくはずだ。

上位と下位に二分極化!?

フューチャーは、「一年でプレミア復帰!」が命題の日立ハイテク クーガーズが好調。移籍加入5選手のうち、#21高田静がキャプテン、#18樋口鈴乃が副キャプテンに指名され、スターターとして起用されている。移籍組だけではなく、198cmのルーキー#11ファール アミナタやもう一人の副キャプテン#51中野由希、2年目の#45粟谷真帆も元気だ。さらに新外国籍の#35デヴォス ロレレが加わり、頭一つ抜けた存在感を示す。

下馬評が高かったプレステージ・インターナショナル アランマーレも順調に勝星を挙げている。#8ニアン デイクンバ、#23バイクンバ デイヤサンの両外国籍がインサイドを固め、#9田嶋優希奈、ルーキー#25佐藤多伽子、キャプテン#55高橋悠佳らサイズのあるラインナップで得点を伸ばしていく。

山梨クィーンビーズは、#1ダラーメ マレムドイと#99ダフェ ハディの両センターがインサイドで期待通りの働きを見せている。スタメン出場が多い#2池田沙紀、#13高田葉里、#17片山菜々、#45渡邊愛加らが安定したプレーを続けているのも

心強い。

これら上位同士の星のつぶし合いと、下位チームの奮起によって様相はかなり変化していくだろう。

三菱電機 コアラーズは伝統あるチームで、戦力も上位陣に引けを取らないだけに連勝もありうる。今季より新規参入のSMBC TOKYO SOLUAは仕事とバスケの両立を掲げ、Wリーグに新しい風を吹き込んだ。

姫路イーグレッツ、新潟アルビレックスBBは勝星こそ恵まれていないが、天日謙作、東英樹両ベテランHCの下、チームとしてだけではなく、選手個々が着実にステップアップしていくシーズンになりそうだ。



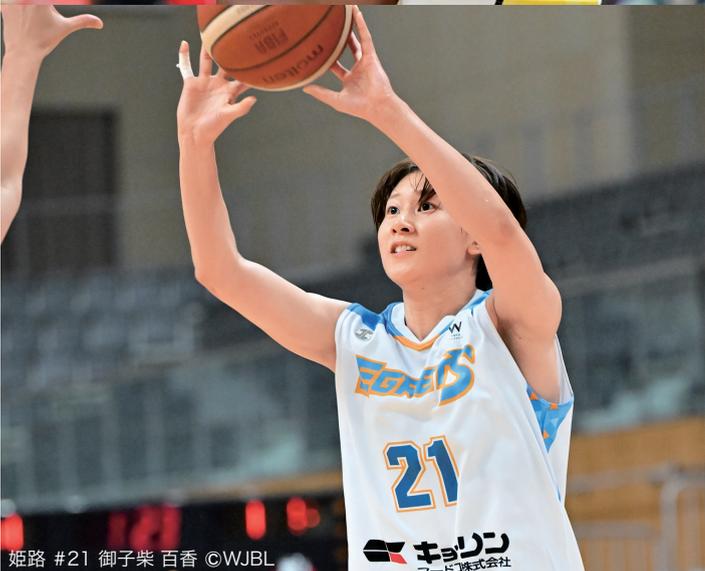
山梨QB #1 ダラーメ マレムドイ ©WJBL



アランマーレ #25 佐藤 多伽子 ©WJBL



日立ハイテク #35 デヴォス ロレレ ©WJBL



姫路 #21 御子柴 百香 ©WJBL



SMBC #11 島村 さらら ©WJBL



三菱電機 #22 サイシャ・ゴリー ©WJBL

W LEAGUE 2025-26

レギュラーシーズン

プレミア 順位

順位	チーム	勝負
1	トヨタ自動車アンテロープス	12勝2敗
2	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ	10勝4敗
3	デンソー アイリス	10勝4敗
4	富士通レッドウェーブ	9勝5敗
5	ENEOSサンフラワーズ	6勝8敗
6	シャンソン化粧品 シャンソンVマジック	6勝8敗
7	アイシン ウィングス	2勝12敗
8	東京羽田ヴィッキーズ	1勝13敗

フューチャー 順位

順位	チーム	勝負
1	日立ハイテク クーガーズ	10勝2敗
2	プレステージ・インターナショナル アランマーレ	9勝3敗
3	山梨クィーンビーズ	9勝3敗
4	三菱電機 コアラーズ	8勝4敗
5	SMBC TOKYO SOLUA	3勝9敗
6	姫路イーグレッツ	3勝9敗
7	新潟アルビレックスBBラビッツ	0勝12敗

※順位は2025年11月30日現在

WASEDA university

早稲田大学
男子バスケットボール部

REPORT
チーム
探訪
vol.11

そ時代の变化にアジャスト、それが早稲田のバスケット

2025年11月2日に終了した「第101回関東大学バスケットボールリーグ戦(1部)」において、早稲田大学が見事、57年ぶりの優勝を飾った。昨年度まで2部に所属していたチームは倉石平ヘッドコーチの指導の下、「革新」と「確信」を持って飛躍を遂げた。

変化を恐れず、本質を見極める

「今の学生を指導する際は、やる気やモチベーションの波に左右されず、常に本気で取り組めるよう導くことが重要だと考えています。ファンダメンタル(＝基礎)が大切だとわかっていても、単純なドリルの繰り返しではうまく行かないこともある。そこで、練習の中に『競争』の意識を採り入れることにしました。さまざまな要素を含んだドリルを考案し、単純に見える1対1でも、この練習をやつていけば自然と基礎が身に付く練習法を編み出しました」

倉石HCは早稲田大学卒業後、熊谷組(当時国内トップの日本リーグ所属)で現役を終えると、33歳の若さで指導者に転身。二度の日本リーグ制覇をはじめ、日本協会の男子強化部部長を務めるなど、各カテゴリーで指導に当たってきた名将のひとり。NBA関係者との交流も深く、常に最先端のバスケット情報をキャッチアップしている。

そんな倉石HCは、覚悟を持って「ヘッドコーチ就任を受諾したという。これまでの経験を踏まえつつ、決して押し付けではない『革新』を前面に、選手たちと一緒にチームづくりに取り組んでいく。

そのひとつは練習環境。部に所属する選手全員の特徴を踏まえながら、「A」と「B」にチーム分けし、練習時間や練習するコート、スタッフの配置などにも気を配る。それが選手たちのやる気やモチベーションにもつながり、学生スポーツで語られることが多い「自主性」や「協調性」なども養われていく

のだろう。何より選手自身が「自分で選び、動いている」と実感できるような環境づくりを力を注いだ。

さらに、倉石HCのチームづくりは選手たちをしっかりと「観察」するところから始まっていく。

「今年3月のスプリングマッチ(※)は福岡第一と競ったりしましたが、あくまでトライアル。プレーだけでなく、性格や気持ちの面など、選手やチームを理解する良い機会になりました」と、人間観察力に長けた倉石HCらしいコメント。選手やチームの特性の見極めは、「A」と「B」のチーム分けに不可欠であり、チームづくりには必須となる。

ヘッドコーチとして求める理想を追求するため、早稲田大のバスケットをトップレベルに引き上げるためのアプローチ。特に気持ちを奮い立たせるため、多くの時間を割いてミーティングを繰り返したという。

「(バスケットへの)思いが強い選手、強豪校でもまれてきた選手は反応が早いけど、そこに到達していない選手もいる。その場合は、それらの選手が練習で何を求めているのか、フィジカルやスキルのレベルがどうかを見るようにしています」と、目配り気配りは欠かさない。

すべてが「チャレンジ」

これまでも肩書は「早稲田大総監督」。男女とも試合会場に足を運んでアドバイスを送り、スカウトティングなどあらゆる面でサポートをしてきた。



#0 山下 映司(3年/中部第一)
関東大学リーグ 優秀選手賞

「今年度は男子のヘッドコーチなので、すべてにおいてチャレンジ、挑戦になる。挑戦というのは、それが目的ではなく『やるかやらないか』の二者択一、その瞬間に覚悟が問われる。自分ではできると思うけど、選手たちに『どうする?』『やる!?』って。そのために丁寧なミーティングを重ねました」

それはコーチとしての倉石スタイル。熊谷組を率いた際も、前年下位に沈んでいたチームを優勝に導いた。この時にチームづくりのヒントを得たという。「チームビルディングに近い世界」だというのが、「選手たちの覚悟や気持ちの面などの波長を(チームとして)いかに同一化させるか」ということ。今はそこから4つの要素を取り上げ、チームづくりに活かしている。

※1: 高校、大学の強豪校が対戦する「スプリングマッチ2025」(3/12~16@東洋大学)

KEY PLAYER



#18 岩屋 頼
YORI IWAYA

キャプテン(4年/洛南)
関東大学リーグ優秀選手賞

チームの変化については、倉石HCの就任が大きき要因だと思える。「今、やりたいバスケットをしよう」と言い続けてくださり、バスケット界屈指のキャリアの持ち主から指示を受けると安心感が違います。僕たちのバスケットは、時に大胆なプレーや戦術を選ぶこともあるので、リズムが悪い時に気持ちを切らさないよう、積極的にハドルを組んだり、声かけをしたりするようキャプテンとして気をつけていました。新しいスタイルなど、倉石HCから指導を受ける中、それを形にできてきたのが嬉しかったです。今年のチームは誰もがシュートが打てて、積極的に狙おうというマインドが形成されたんだと思います。練習の中で競争心が生まれるのも、お互いの成長につながる相乗効果があったと思います。



#6 三浦 健一
KENICHI MIURA

(3年/洛南)
関東大学リーグMVP

優勝は嬉しかったですし、チームの歴史に新しいページを加えることができました。新しい挑戦を通じて、得られたものが大きかったと感じています。ミーティングを繰り返す中、自分たちに足りないところ、もっとこうすべきだということを追いかけていきました。最初はどうかかな、と不安もありましたが、出だして良い結果が出たのが良かったです。リーグ戦は22試合という長丁場で、良い時もあれば悪い時も……最初のほうはなかなか悪かったです。チームが勝つことが一番大事なことでしたし、その中で自分の準備を怠らないうちで、最後に良い結果で終わりました。自分自身のパフォーマンスにもある程度納得でき、優勝も。本当に良い形で終わったと思います。



早稲田大学
倉石平 ヘッドコーチ
OSAMU KURAIISHI

1956年、新潟県出身。早稲田実業高を経て早稲田大学へ。卒業後、熊谷組に入社。1987年の現役引退後、89年から熊谷組のヘッドコーチに就任。その後、大和証券や日立サンロッカーズでHCを歴任した他、日本協会男子強化部長や男子代表HCも務めた。NBAやBリーグ等解説者。早稲田大学スポーツ科学学術院 スポーツ科学部教授。

写真提供: 早稲田大学



ピリチュアル」という言い方ですが、靈感とかではなくて、選手同士の精神的なつながりやチームケミストリー。例えば選手の能力を足し算した場合、1+1+1+1……115と単純ではなく、不思議なことに予想外の力を発揮することがある。その瞬間を（コーチは）どうやってつくり出すか。今年の早稲田でも重要だったのが、そのきっかけづくりでした。どうすれば勢いづけられるか……偶然の要素もあったかもしれませんが、それをつかみ取ったのは間違いなく選手たちだと思っています」

上級生たちは、指導者が代わったことを前向きに受け止めている。その中で、倉石HC自身、「ピースとしてハマった」と評するのが新入生#12の松本泰選手（洛南）。新人インカレで爆発的な得点を発揮し、「FIBA 3×3ユース・ネーションズリーグU21」に日本代表として出場し、準優勝に貢献した逸材だ。周囲の反応を気にせず、倉石HCは新たな活躍の場を提供し成長を促した。こういうところに、目先の成績のみにとらわれない早稲田大らしさ、倉石イズムの「確信」が表われている。

学生バスケの本質を貫く

さて、この日の練習はアップが終わるとすぐにシュート練習へ。ポジションを移動しながらどんどんシュートを放っていく。移動の際の動きは当然、試合を意識していること。集中して放つシュートは次々にネットを揺らす。ひと通り終われば次々にシチュエーションを変えながらシュートが続く。

ハーフコートオフENSEを意識してのことだが、タイマーを14秒に設定して3ポイントを打つ練習が始まる。トップから両サイドへ移動（その際、サイドラインをタッチ）し、全員が3本続けて決めるまで続いていく。成功した選手は勝者!?としてコートサイドへ出るため、競争心が煽られるのか、声を掛け合う選手たちはどこか楽しそうだ。

いつも約1時間、さまざまなメニューを採り入れたシュート練習を行うという。これは前述の通り、「練習の中に『競争』の意識を採り入れ、単純に見えて自然とファンダメンタル（基礎）が身に付く練習法」のひとつ。今年、関東大学リーグを制した早稲田バスケのエッセンスが詰まっていると感じられた。

シュート練習が終わると、次はオールコートで走り込む。2対1や3対3などはとにかくスピードで、積極的にシュートを狙う展開を意識している。少人数で行うだけに、すぐに順番が回ってくるのも効果がありそうだ。走力とスタミナを養い、視野の広さ、パスのタイミング、ディフェンスの守り方など、コートに立てば選手一人ひとりがテーマを持って取り組む練習が続く。



自分たちが覚悟を持って「やる」と決めたこと。自分たちの強みを自覚し、「確信」に変えていった練習は、己を鼓舞し、チームメイトと支え合う強さを培ったに違いない。

練習中に気づいたことがある。笛の合図でメニューが転換するわけではなく、流れるように進んで行く。倉石HCの声が響くこともほとんどなかった。3対3の練習で、気づくことがあれば指示を伝えることはあったが、選手たちも言われていることがすぐに理解できるようで切り替えは早い。

「その日の練習メニューは全員がわかっています。それぞれ説明する必要はないし、重視すべき点は選手たちもわかっていますから」と、ある意味淡々と進む練習。コートサイドの倉石HCは、「その日のコンディショニングやメンタル面の変化など、選手個々の状態を見逃さないようにしています」とのこと。「学生生活はいろいろなことがあつて当たり前。それでもこの時間、集中して仲間と頑張ることを大切にしてほしい」とアドバイスを送る。

最後に、学生バスケット界に望むことを訊いてみた。

「学生バスケットは、アメリカのNCAAを出すまでもなく、アマチュアリズム云々の世界ではなくなっているのか知れませんが、そんな中でも、まずは『学生らしく勉強しなさい』ということと、『世界を知りなさい』というのがすごく重要。早稲田の学生は望めばさまざまな分野で学びを広げられます。自分でそれを見出して、将来の糧にしてほしい。それがバスケットにも活かせるようにしなさいと伝えたい」

倉石HCの真骨頂、それはバスケットを通して人としての「ファンダメンタル」を形成することかもしれない。



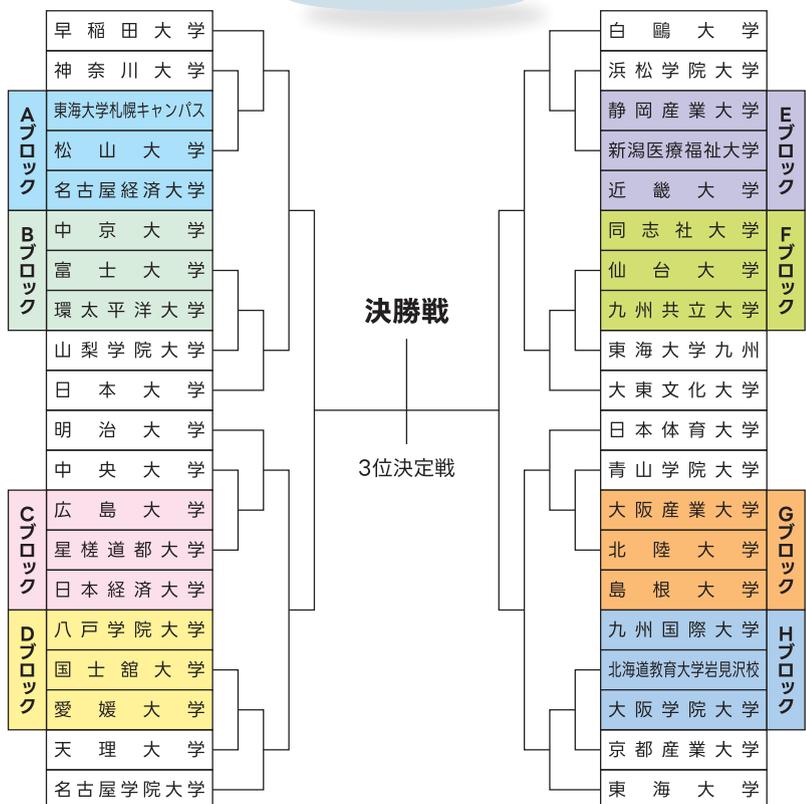
#18 岩屋 頼



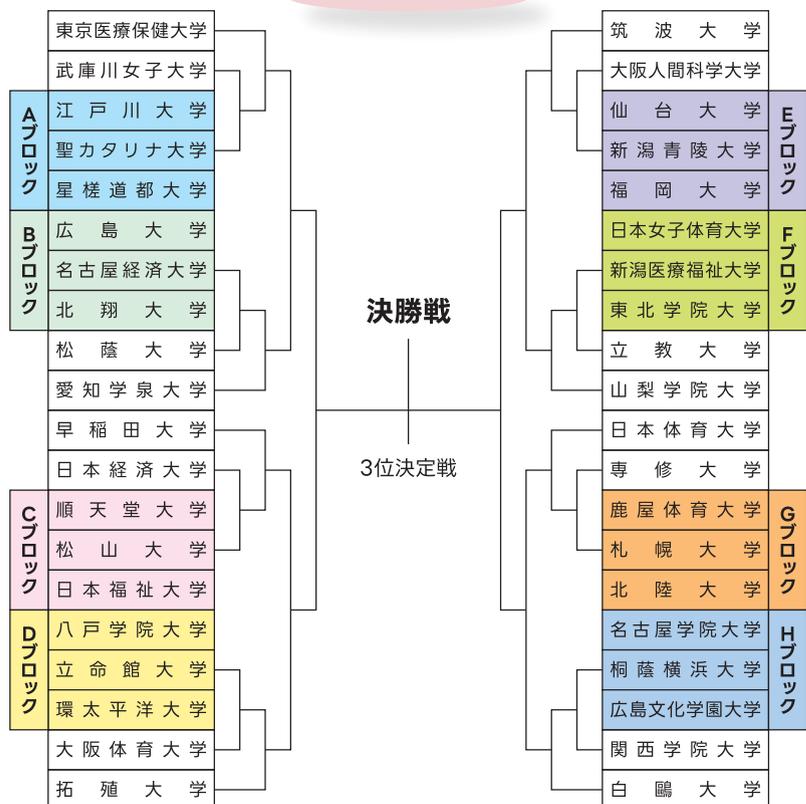
第77回 全日本大学バスケットボール選手権大会 組み合わせ

ALL JAPAN INTERCOLLEGIATE BASKETBALL CHAMPIONSHIP 2025

MEN



WOMEN



結果は全日本大学バスケットボール連盟HP (<https://jubf.jp>) をご参照ください。

素敵な人との出逢いで人生は変わる

ルンゲ春香、コーチへの道(前編)

とにかく体を動かすことが好きな少女、ARUことルンゲ春香(旧姓・山下春香)が生まれ育った福岡は、プロ野球ソフトバンクホークスの地元。将来の夢は「野球選手になりたい」と中学でソフトボール部へ。1年生でメンバー入りして試合に出ても、ボールの行方や打順によっては手持ち無沙汰……いつか物足りなさを感じ、ミニバス時代に楽しかったバスケットを思い出して「バスケットがしたい!」と、中1の夏にバスケット部へ。そこからバスケットの道に進むことを選んだ。

夢は日本代表選手と、もうひとつ

「中2の時、福岡でユニバーシアード大会(1995年)があり、女子の代表チームが銅メダルを獲得しました。その時の監督が今でも尊敬する恩師の原田茂先生(元樟蔭東女子短大監督)。大会のお手伝いをする機会をいただき、その時初めて代表選手の試合を観て「日本代表になってこんなキラキラした舞台上でプレーしたい!」って思いました。ただ、どうすればいいのかわからず、一生懸命頑張るしかない。市大会で良い結果を残すことができ、高校進学の際は、福岡で当時2部上位の沖学園高校から声を掛けていただきました」

当時、福岡の高校バスケットは1〜3部制、入学予定の高校は1部を目指しこれから強化を進めようというタイミングだった。しかし、入学後は3部に降格し、そのまま昇格を果たせずに現役引退。しかしながら、目標はあくまで「日本代表」と……。

「代表に入るには全国大会で活躍しなければいけない。強いチームをめざそう、それもただ強いだけじゃなく『常連』といわれるところで修行しなければいけないと考えました。『月バス』で探していたら、当時インカレ2位(2000年・第47回大会)の樟蔭東女子短大が目につきました。4年制大学に交じって短大が準優勝!?調べてみると、たまたま準優勝したわけではなく長年にわたりずっと強い。その前後も3位(1998年、2001年)に入っていて、優勝もしており、『体どんなバスケットをしているんだろう』と興味を湧きました」

進学先を樟蔭東女子短大に定めた後、3年生の5月でバスケット部は引退していたものの、ユニークな行動を起こす。これがARUらしいやり方。周りはきょとんとするかもしれないが、自ら描くイメージ(未来予想図)があり、それをトレースするように

チャレンジを続ける。

「『全国大会レベルの練習』を体験したいと思い、母校の強い部活を調べました。ゴルフ部はプロ、柔道部や空手部は日本代表や世界選手権出場者を輩出するほどレベルが高い。そこで、それらの部活の『朝練』に参加させてもらいました。バスケットのほうは土日に地元の強豪、『福岡クラブ』の大人チームの練習に参加していました。ある時、高校バスケットの名門・中村学園女子と練習試合をするというので一緒に行き、当時の顧問、吉村(明)先生に『中村の練習に入れてください』と頼みました。すると『いいですよ』とおっしゃってくれて。平日は、沖学園から中村学園女子へ自転車で通う日々を過ごし、やれるだけの準備をして樟蔭東女子短大に入学しました」

実は当時、原田氏は同校にはおらず、指導は別のコーチが担当。その後、再び原田氏が指導に当たることになった。ARUは「樟蔭東が強い」という理由で進学を決めたため、その辺りの事情は理解していなかったという。ちなみにARUは短大で出会った先輩がつけた愛称。「小さくてもアピールできる選手になるように」の亜琉(アル)だそう。

「当時はいろいろあったんですが、その時期は原田先生が樟蔭東を引退されるタイミングで、『最後の2年間は俺が面倒を見る』と言ってくださり、私にとっては幸運でした。日々の練習は最初の2〜3時間はファンダメンタル、その後はほぼ固定されたメンバーで2時間ほど5対5。最初は見るだけでしたがそれも楽しかった。レベルの高い環境で練習ができ、日本代表候補選手もいる5対5ですから、『こういう動きが必要なんだ』と、気づかされるが多かったです」

原田先生の練習は、目からうろこでした。すべてが理にかなっていて解りやすい。これまでずっと『さっきはできなかったのに、同じ頑張りでもこの時はなんで上手くないかなんだろう?』って思ったことが、『こうやれ

ばこうなるんだ』ってわかる。(プレートの)成功率が上がり、なるほどの連続で、『バスケットってこんなにおもしろいんだ!』って自覚めました。入学して3カ月ほど経ったある日の5対5で、いきなり原田先生から『よし、山下、お前入れ』と言われ、そこでたまたまプレーが上手くいき、そこからスタートで使っていただけようになりました」

選手の礎、コーチの礎は短大で

当時このエピソードは、「今の自分につながると思ってもいかなかった」というが、もしこの先、指導者になった時には、「目の前の選手を経験やサイズなどで判断せず、一生懸命理解して取り組む選手にチャンスを与えよう」という考えに結びついていく。原田氏に見出され、1年生でインカレ3位、優秀選手賞を受賞した。「小さい選手に夢を与える存在になれよ」というメッセージを、恩師から受け取ったと信じている。

インカレ3位、個人賞受賞は「日本代表をめざす」ためのアピールになったはずだが、現実を突き付けられることに。

「原田先生からは、『お前が170cmだったらな』って言われたことがありました。その時、日本代表は人が決めるもので、自分ではコントロールできない。だから自分がコントロールできることにフォーカスして進んでいこうと考えました。そこでもうひとつの目標、『小さくても人に夢を与えられる選手になる』に向かっていくことを決意しました。この2つの目標を書いた証拠は、今も実家の柱に残っています(笑)。それで、次の挑戦を考え始めました」

Wリーグでプレーしたかったが短大卒業後、すぐに入団できるチームは見当たらず、さまざま情報を当たっているうちに、「そんなにバスケット

がやりたいなら、アメリカに挑戦してみたら?」という何気ない

姉の言葉に、そういう選択肢もあると思うようになった。それから2カ月後、周囲の協力を得て、当時Wリーグ2部に所属する荏原ヴィッキーズ(現・東京羽田)に中途採用の枠を得て入団することができた。面接の際、人生のターニングポイントとなる出会いに恵まれた。

「同じタイミングでたまたま私ともう一人、面接を一緒にする選手がいました。大学までシアトルでプレーし、日本の実業団チームを探していた寺田勇紀(ユキ)との出逢いです。2人とも荏原ヴィッキーズさんが探ってくくださり、寮のルームメイトになりました。当時2部だったため、『もっと上をめざしたい』という思いが強くなり、『だったらアメリカに挑戦してみたら?』という姉の言葉を思い出して、挑戦しようという決心しました。ユキに、アメリカの情報(トライアウト等々)を相談し、ハイライトプレーの動画作成やメール等を手伝ってもらい、オフシーズンにはユキがシアトルへ帰国する際に一緒にアメリカへ。短大卒業したので、残りの2年をアメリカの大学でプレーしたいと考えるようになりました」

そして見つけ出したのがアリゾナ州立大学(ASU)、NCAAの強豪校で語学学校が併設されてい



バスケットの師匠、原田 茂先生



ルンゲ春香

1981年、福岡県生まれ。身長150cm。舞鶴中、沖学園高から大阪樟蔭東女子短大を経て、荏原ヴィッキーズ(現・東京羽田ヴィッキーズ)へ。2年後、単身渡米しNIAA(National Association of Intercollegiate Athletics)等で活躍後、ドイツ2部リーグでプレーし優勝。2011年からNPO法人ソシオ成岩スポーツクラブに勤め「イデアスバスケットボールアカデミー」を運営。コートネーム「ARU(アル)」。

Coaching for Character, P

写真提供：ルンゲ春香さん

9
HUSTLE BOARD
volume 8



ヘイスティングススカラー時代のARU

る。まずはその語学学校を卒業し、トライアウトを受けてASUに入ろうとイメージが膨らんだ。

「ヴィッキーズを2年で辞めてアリゾナへ。何の保証なく、ただ自分で『そうなる』って思っただけ。ツテがあったわけでもなく、オフアを頂いたわけでもない。周りは心配しましたけど(笑)、自分はワクワクしてました。でも飛行機を降りる時に、フェニックス・アリゾナの空港の辺りはほぼ砂漠で、その時に人生初めて『この先大丈夫かな?』って不安になりました。英語はできないし、知り合いもない。でももう降りるしかないし、『さあ、この状況をどう楽しんでいこうか?』って冒険気分になりました」

「大丈夫かな?」は一瞬のこと、こうと決めたら前進あるのみ、それはARUだから。喫茶店を経営する両親は共働き。平日はほとんど家に居ないため、自分で決めたことは自分で責任もってやってね」と優しく諭されて育った。家に帰ればいつも「大きくなったね」「あなたならできるよ」と母から笑顔で褒められ続け、一度も小さいと思つたことがない。できないことがあればできる方法を考へてはワクワクする、そんな家庭環境だった。両親が休まず一生懸命に働き、忙しくても笑顔でお客様に対応し続ける姿を近くで見えてきた影響もあり、物おしせず誰とでもコミュニケーションを取って道を拓いて行った。

「まずは日本人でバスケットをやっている人がいないか、語学学校の日本人スタッフに聞きました。それで出逢ったのが、当時ASU男子バスケット部のマネージャーをされていた桶谷(大)さん(現・琉球ゴールデンキングスHC)。本当に気さくな方で、公園や大学のビッグアップゲームに連れて行ってくださったり、勉強や相談に乗っていただいたり、今でも大好きなお兄さんみたいな存在です。

半年が過ぎたころ、NCAAには25歳までと年齢制限があり、私の年齢(当時23歳)では間に合わないという状況を受け、アトランタ・ダイヤモンドというチーム

に入団しました。夏休み期間の3カ月はジョージア州アトランタで過ごしました。アリゾナに帰ってくる

と、語学学校は授業料が高いし、練習場所も探したいとなり、学費の安い短大に転校し、チームの練習に入ってバスケットをしようと考えました。どうせだったらアリゾナで一番強い短大に行きたいと調べました。そして見つけたのが1989年、1998年、2005年に全米制覇(NCAA Div1)を果たした、セントラル・アリゾナカレッジ(CAC)。高3の時と同じように『練習に入れてください』と尋ね、『いいよ』って言うてくださり、通うことになりました。そこで恩人のリンコーチ(Lin L. Laursen)と出逢いました。ちょうど2005年のその年に全米優勝し、卒業生はNCAA Div1の強豪へ転校し、プロや母国の代表選手としてプレーするなど、先々活躍する選手を育てているコーチでした。選手のリクルートのために、元アメリカ代表選手で今はサウスカロライナ大のHC、アメリカ代表HCも務めたDawn Staleyさんも、リンコーチを慕って短大に来ていました。練習生という立場でしたが、チームメイトのように温かく迎え入れてくれてとても良い経験ができました」

さまざまなお人との出会いに恵まれて、というより自らたぐり寄せながらイメージを現実のものにしていく。スカラシップ(学費全額免除)のオフアを受け、同短大でプレーする期待が膨らんだが、(日本の短大卒で)資格がないことが判明した。それでも、「英語の勉強しながら、この環境で練習を続けたい」という申し出を受け入れてもらうことができた。そして次のステップへ。

「NAIAという年齢制限が比較的緩やかなリーグのヘイスティングススカラー(ネブラスカ州)へ、スカラシップを受け入学することができました。リンコーチの盟友がコーチを務めており、『今年優勝したけどガードが抜ける、誰かがガードはいないか』と相談を受けたリンコーチが私を推薦してくださったんです。興味を持ってくださったHCが、アトランタでプレー

する私の試合を親に来てくれて、そこで正式にオフアをいただきました。渡米して2年、もうお金がないと正直に話をしたら、ボランティアでホストファミリーをしてくれるドクターのご夫妻が受け入れてくださるようになりました」

アリゾナからネブラスカのヘイスティングス市ま

では車で約3日間、20年前はスマホも無い時代で、図書館のパソコンで20枚ぐらい地図を印刷し、それを頼りに新たなスタートの地・ネブラスカ州へ旅立った。

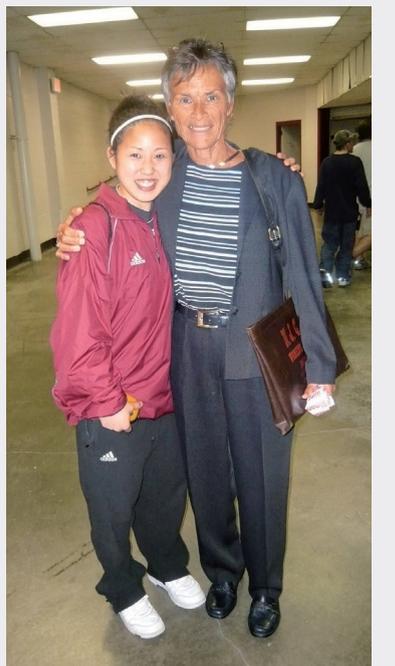
そのチームでは即スタター。カンファレンス優勝、NAIA全米トーナメント3位という好成績を収めるなどアメリカでの4年間は濃密なバスケットライフだった。学生生活を終えるにあたり、帰国後の生活に思いを馳せた……はずだったが今度はドイツへ行くことに。

道は自分で切り拓く

「私の計画では、ヘイスティングス大学で全米優勝し、チャンピオンリングをもらったら少し落ち着こうと思っていました。しかし全米トーナメントの準々決勝で、それもWオーバertimeの末、負けてしまいました。悔し過ぎて、初めて2週間ほど引きずっていました。これでは終われない。考えを巡らせているうちにヨーロッパでプレーするチームメイトの話聞き、興味を湧きました。調べてみると、クラブ育成でアンダーカテゴリーが整っており、各地にクラブ組織がある。ヨーロッパのバスケット、なんか面白そうだな』って。まだプレーもしたかったので、挑戦したいと思い、アトランタのチームメイトにFIBAエージェントを紹介してもらいました。プロキャンプに参加して手応えを感じ、『やれるし、やりたい!』とビジョンが明確になりました。

その後お金を貯めるために一度日本に戻り、一年間東京で過ごしました。最初は在留時代の先輩の家に世話になり、その後は倉庫部屋(お風呂なしでソファのみ)をタダで貸していただき、半年ほど過ごさせていただきました。早朝に羽田空港の飲食店、お昼からは別の飲食店、夕方からはバスケット教室などと、一日に2、3つのアルバイトを掛け持ちし、空いている時間にトレーニングや知り合いのチームでの練習、在原ヴィッキーズの練習にも参加するなど一年間やれるだけの準備をし、ワーキングホリデーのビザを取得して渡欧しました。ドイツはワーキングホリデー制度があるので、それを使って挑戦し、もう一度選手としてプレーしたい、クラブ組織も学びたいと考えました」

中二の頃から目標にしたのが「日本代表選手」と、もう一つ「小さくても人に夢を与えられる選手」。そう考えた時に、成長するには上手くいかない経験をたくさんしなければならぬと思った。アメリカでバスケットに挑戦したのもそう、もう一度、同じ経験をすべくドイツへ行きたいと思うようになった。一年後の



アメリカの恩人、リンコーチ(Lin L. Laursen)

2009年、首都ベルリンに降り立った。

「最初は所属するチームがないので、知り合いの繋がりで、ドイツで理学療法士の国家資格を取得し、ベルリンでフィジオセラピストとして働いている岡田瞳さんを紹介していただきました。岡田さんのお陰で2部リーグのコーチと連絡先を交換することができ、『練習に入れてください』と尋ねると、『いいよ』となり、おまけに『今週末にリーグ戦が始まるので今日からチームに入って』とお誘いを受けました。1年目に2部リーグ優勝、ただ資金が乏しく1部昇格はしないとなり、1部のチームを探そうと思いましたが、選手やスタッフとも仲が良くなり、もう一年、ここでやろうと決めました」

バスケットはすべて自分の喜びのためにあった。インカレで活躍し個人賞をもらった時は嬉しかった。でも、その瞬間はすぐ過去のことになる。また次に向かって行かなければならない。海外でバスケットにトライしオフアももらえば嬉しいし、結果が出れば嬉しい。だけど、その時点ですぐ過去のこと……ベルリンで気づいたことがあった。

「今思えば苦しかったと思います。優勝して嬉しいけど、その瞬間から過去になるのでまた次に向かう苦しさがある。これを30歳近くまでやってきたら、自分の喜びって瞬間なんだから思えたんです。賞を獲ろうが優勝しようが、自分に対しての嬉しさは同じでそれ以上はないんだって。そう感じていた時、飛び級でチームメイトとして加わったU18代表候補の選手と出逢いました。10代の若い選手を指導し一緒にプレーしながら、試合を通してその子が成長していく姿を見るのがすごく嬉しくて。自分が予想した結果ではなかったとしても、その選手がすごく喜んでくれることがある(その選手の努力の結果ですけれど)。一緒に喜び合えるなら、これって嬉しさが2倍、もし10人に関わったら、10倍嬉しのかな?』って思ったんです。その時、日本に帰ったら選手の成長に携われる指導者になりたい! 初めてそう思いました」

後編へ続く



SoftBank WINTER CUP 2025

2025 12.23 tue → 12.29 mon

@東京体育館 / 京王アリーナTOKYO

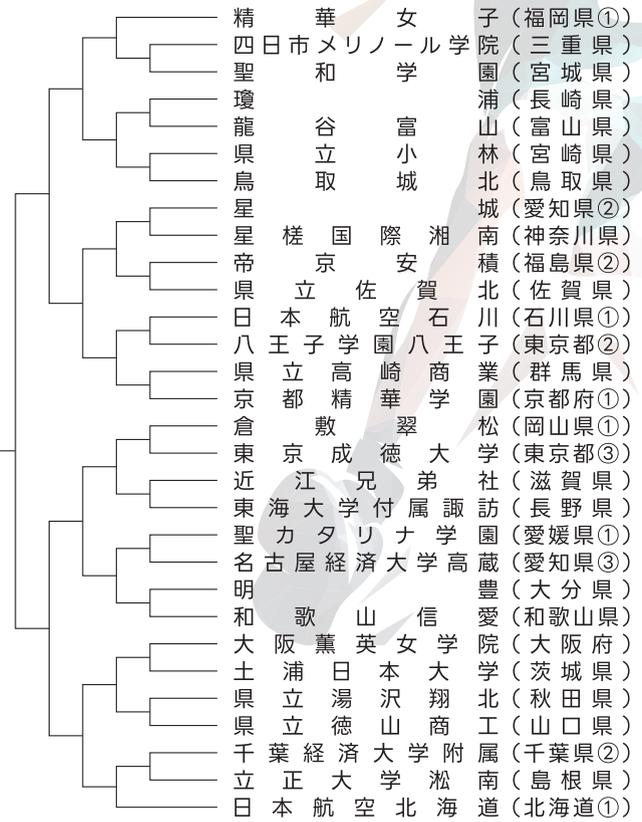
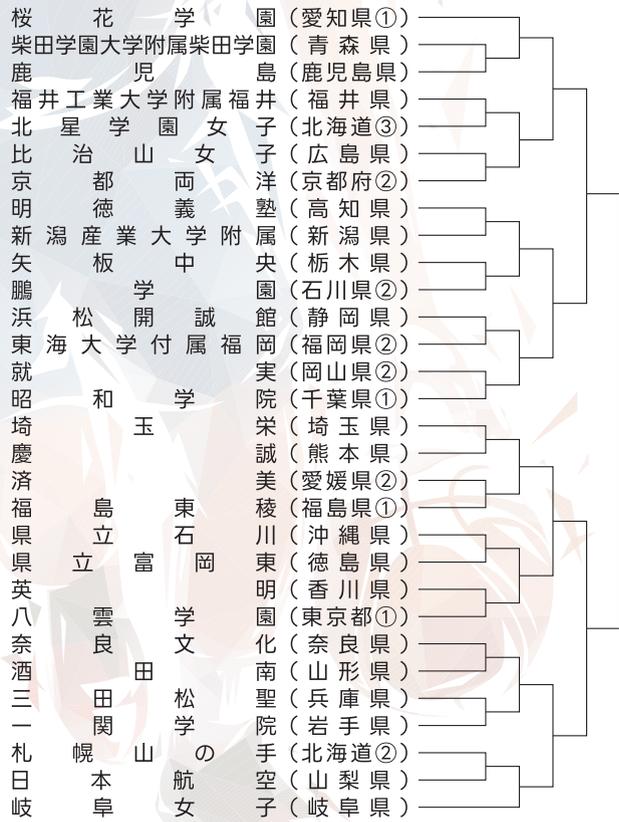
女子決勝 12月28日(日) 男子決勝 12月29日(月)

[出場校の内訳]

- 都道府県代表校(47校)：各都道府県の予選を勝ち抜いた1チーム
- インターハイ上位校(2校)：2025年インターハイの優勝・準優勝校
- ブロック大会校(10校)：地域ブロック大会優勝校(関東は準優勝校も)
- 開催地校(1校)：開催地・東京都からの追加出場

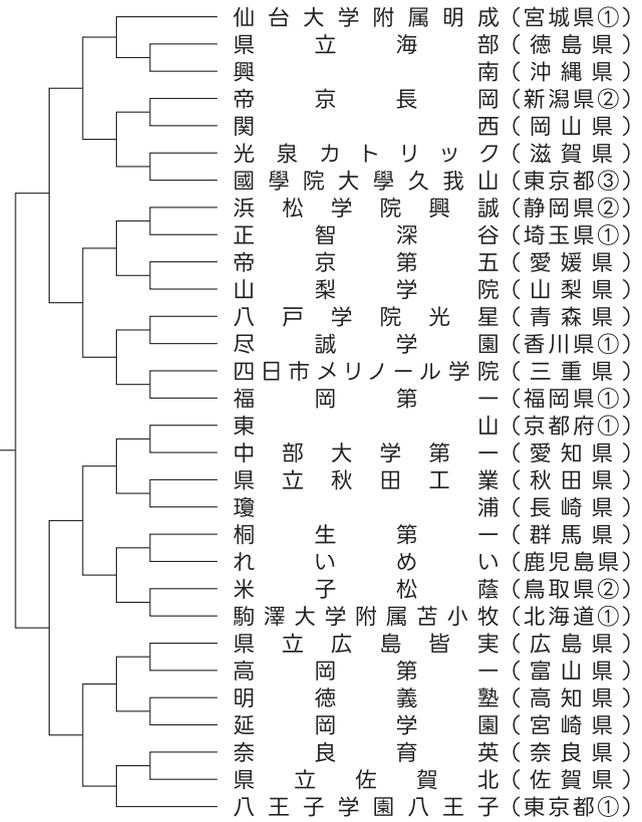
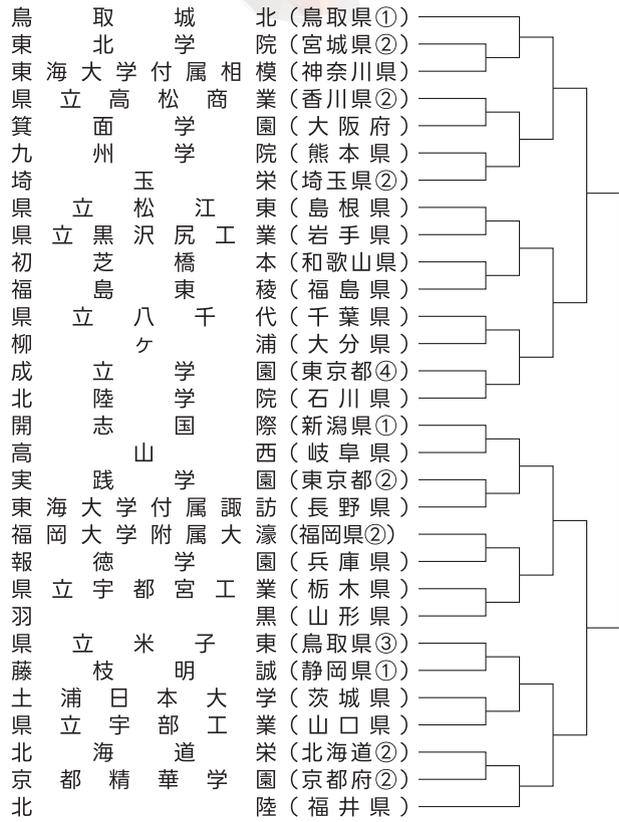
女子組み合わせ

決勝戦 12.28sun FINAL SOFTBANK WINTER CUP 2025



男子組み合わせ

決勝戦 12.29mon FINAL SOFTBANK WINTER CUP 2025



*日程・結果、会場案内等詳細情報は こちらから ⇒ <https://wintercup2025.japanbasketball.jp>

OTC ANCHORS 通信

Everyday Chuckles

日々笑顔を忘れず

いつも応援ありがとうございます。
今季のリーグ戦(SBL-SB1)も残り4試合となりました。
厳しい状況ではありますが、最後まで全員で頑張りますので、
応援のほどよろしく願いいたします。
今回は選手に聞いた面白話、ビッグリ!? エピソードを
みなさんにお伝えしようと思います

その1 今年(2025年)の皇后杯兵庫県予選、園田大学戦でのお話です。接戦が続く緊迫した状況の中、#11マオ(藤田 真生)が転倒……それが今まで見たこともない転び方だったため、ベンチでは大爆笑が起きていました(笑)

Report by #9エリ(矢田貴海)

その2 ANCHORSには、似ているコートネームの選手が2人います。#4ライ(祇園来美)と#5ダイ(愛川桃菜)。試合中に名前を呼ばれるとどちらが名前を呼ばれたかが分からず、毎回2人とも反応。2人で顔を見合わせる姿に、みんなが笑ってしまいます(笑)

Report by #19サラ(高橋こはく)

その3 練習中に5対5のメンバー分けをした時、#19サラ(高橋)が自分がチームを間違えているにもかかわらず、違うチームに入って『ボールお願いします!』と、一番張り切って声を出していました(笑)

Report by #8ルト(清水悠紗)

OTC ANCHORS ※オフィシャルサイト <https://www.otc-anchors.jp/> より

兵庫県神戸市を中心に活動する、社会人女子バスケットボールチームです。2025年度より社会人連盟SB1リーグへの昇格に伴い、チーム名を『OTCきや』から『OTC ANCHORS (アンカーズ)』に変更しました。全国大会での上位入賞を目標に掲げ、毎週5日神戸市内外の体育館にて練習に取り組んでいます。また近畿圏を中心に無償で行う地域貢献クリニック"MOVE WITH US"を定期的で開催しており、地元神戸に根付いた活動の中で地域のバスケットボール普及を目指します。

2025-2026
チームスローガン

柔能制剛

「柔能制剛」とは、弱いと思われたものが強いものに勝つこと。本年度からSB1に昇格し、昨シーズン以上に強豪なチームが揃う中での対戦となります。どのように戦えば勝利に繋がるかを柔軟に考え、チーム1人ひとりのアイデアや個性を大切に、全力で戦っていきます。そして、今シーズンの目標である『SB1 BEST4』を達成することができるよう日々成長していきます。応援して下さる方との繋がりを大切に、感謝の気持ちを忘れずどん

な時も全力で戦います。皆さまに元気や勇気を与え、何かのきっかけとなれるような存在、地元神戸から愛されるチームを目指します。

チームロゴ



馴染みのあるアンカーシンボルをモチーフに、バスケットボールのデザインを落とし込んだオリジナルロゴです。イカリの爪は2つの上向きの矢印で表し、それぞれ『チームの成長』と『地域の活性化』を表現しています。

チームカラー

スティールブルー

前身の「KTSクリスタルダックス」「OTCきや」のチームとしての活動、成績に敬意を払い同じチームカラーを引き継ぎました。スティールブルーは落ち着いた青みがかったカラーで、上品かつ知的な印象を与えます。スピードやパワーだけでなくチームプレイを重視したチームを目指す意志を込めています。またスティール(鋼)の強さや耐久性から、チーム名が変わっても引き継がれるチームのレガシーを表現しています。

《変革》

1991年4月
「KTSクリスタルダックス」が誕生。
2010年4月
「OTCきや」に名称変更。
2018年4月
新・地域リーグが開幕し西日本8チームでのリーグ戦がスタート。
2024年4月
全国リーグのSB1リーグと地域リーグのSB2リーグに分類され、OTCきやはSB2西日本リーグに所属。
2025年2月
SB2西日本リーグで2位となりチャンピオンシップへ出場。SB1への昇格が決定。
2025年6月
「OTC ANCHORS (アンカーズ)」に名称変更。

公式HP





サインエールと心に届く声援 女子バスケが悲願の金メダル

「追加をよろしいでしょうか？みなさまにデファスリートのことを知っていただきたくかけになればいいと思っています。目標は金メダル、メダルを取って、これまで支えてきてくださった方、これから応援してくださる方に、感謝の気

「二丸の金」、みんなが心に価値あるメダルをかけることができたデフリンピックは、永遠に輝き続ける。



聞こえない、聞こえにくい選手のための国際スポーツ大会「デフリンピック東京大会」(朝日新聞社など協賛)第11日は25日、東京などであり、団体競技で日本のメダル獲得が続いた。バスケットボール女子は決勝で米国に65-64で競り勝って、初の金メダル=写真、吉田耕一郎撮影。若松優津主将は「コート上の選手もベンチも一丸となってつかった金メダル」と喜んだ。▼13面=詳細

2025年11月26日付朝日新聞

2025年11月15日から26日まで、12日間にわたって開催された「東京2025デフリンピック」。デフリンピックとは「デフ」(＝聞こえない、聞こえづらい)十人リンピックの造語で、国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)が主催する、4年に一度開催される国際スポーツ大会のこと。1924年に第1回大会が開催され、今回は100周年の記念大会として日本で初めて開催された。

大会が近づくとつれて、新聞やTVなどでデファスリートが取り上げられる機会が増え、観客向けに、デフリンピックならではの応援スタイルが紹介される機会も増えた。デファスリートに「声」は届かない？いいえ、そんなことはありません。耳では聞こえないとしても、必ず心に届きます。肘を曲げて、両手を頭の横に構えたら、次は勢いよく前に突き出す、これは「ガンバレー、行け！」という意味のサインエール。

幸い女子の日本対オーストラリア戦をライブ観戦することができ、大勢の観客とほんのひと時、一体感を味わうことができた。残念ながら、アメリカとの決勝戦(11月25日)はネット観戦。しかし結果は最高ノリで日本が逃げ切った。思い起こせば4年前の東京オリンピックでは、女子日本代表が銀メダルを獲得。この時はアメリカに75-90で敗れ、悔しい思いをしたが、デフバスケは悲願の初優勝。当日は各局TVニュースのスポーツコーナーで取り上げられ翌日の朝日新聞一面に、「二丸の金」という見出しで掲載された。その写真には、若松優津キャプテンの「コート上の選手もベンチも一丸となってつかった金メダル」という、喜びのコメントも。そういえば、前号の弊紙(7月20日発行 VOLUME 007)にて、デフリンピックに向けた男女日本代表の活動を取り上げさせていた。女子の坂本知加良HCと掲載予定のコメントについて、こんなやりとりがあった。

Hustle Board
column Board

皆人公平、寄港中

皆人公平
text by koinemato

スポーツ好きの編集者ライター。つらわけバスケットボールはプレー歴があり、好きが高じて仕事として取り組むようになった。スポーツに限らず、さまざまなジャンルの書籍や雑誌、パンフレットなどの制作・原稿執筆も経験。近頃は関西バスケットに興味をそそられている。

アンケートに答えて
**豪華プレゼントを
もらおう!!**

読者プレゼント

1 神戸ストークス ホームゲーム
観戦ペアチケット
(観戦申込券)

2名様

2 スマートフォン、PC
日本代表応援タオル

5名様

応募は終了しています。

ストークス観戦ペアチケット、代表応援グッズをいただいた場合、誌面掲載にご協力ください。

当選者にはメールに自動入力されるGmailアドレスに届いている場合、届いているメールアドレスにメールが届きます。

締切 2026年1月

スマートフォン、PC
<https://x.gd/wfuVZ>

にアクセスしてアンケートにお答えください。

こちらからも応募できます

※一部の端末・機種でご利用いただけない場合があります。予めご了承ください。